

達成度調査及び児童の学習状況から見た成果と課題 ○成果 ▲課題

※達成率・・・目標値（おおむね満足と判断するための各教科・観点ごとの得点）を上回った児童の割合。

		第4学年	第5学年	第6学年
結 果 の 分 析	国語	○読む力、言葉についての理解・漢字の読み書きは達成率が高い。 ▲ローマ字、指示語や接続語の使い方の基本的な理解が不十分であるなど、一部の児童に課題が見られる。	○各観点とも高い達成率であり、基礎的な力は十分に定着している。 ▲文学的文章の主題の理解が弱く、辞書の使い方・調べる習慣がつかっていない。	○各観点とも比較的高い達成率であり、基礎的な力は十分に定着している。 ▲一部の児童について文学的文章の内容・要旨の理解が不十分。また、漢字の定着や言葉の意味理解も弱い。
	社会	○各観点とも達成率が高く、基礎的な力は十分に定着している。 ▲地図記号が定着しておらず、資料を読み取る力が弱い。資料を活用して必要な情報を読み取る力に課題がある。	○各観点とも達成率は高く、特に観察・資料活用の技能が高い。 ▲全体的に既習内容を活かして問題を解く力が弱く、47都道府県の場所・名称の達成率が低い。	○全体的に達成率が高い。特に上位の児童の定着度が高い。 ▲日本の国土の様子に課題があり、全体的に「活用」する力が弱い。また、一部の児童の達成率が低い。
	算数	○計算・測定したり、作図したりする力の達成率が全体的に高い。 ▲問われていることを明確にして文章題を解く力が弱い。図形の特徴・グラフの理解に課題がある。	○計算・測定したり、作図したりする力が全体的に高い。 ▲数学的な考え方について、一部の児童の達成率が低い。立体図形の展開図の理解が不十分。	○各観点とも達成率は高く、特に技能および知識・理解の観点が高い。 ▲正答率は二極化の傾向があり、特に「単位量あたりの大きさ」の理解が不十分である。
調 査 以 外 の 成 熟 度 と の 課 題	教科	第1学年	第2学年	第3学年
	国語	○言葉の特徴やきまり、文字の使い方について大変よく理解できている。 ▲音声で入ってくる話を聞き取る力に課題がある。	○文を書く力、言葉の特徴やきまり、文字の使い方について定着している。 ▲音声で入ってくる話を聞き取る力に課題がある。	○上位の児童の達成率が高い。 ▲順序を整理して文章を書く力について、一部の児童が定着していない。平仮名・片仮名の表記に課題がある。
	算数	○どの観点・領域ともバランスよく、だいたい理解できている。 ▲一部の児童について、数感覚や数量の意味についての理解が不十分である。	○バランスよく力がついているが、特に数についての感覚や、数量や図形の意味についてよく理解できている。 ▲数学的な考え方について、一部の児童が問題の意味を十分に読み取れないため、達成率が低い。	○上位の児童の達成率が高い。 ▲全ての観点において上位と下位の差が大きく、二極化の傾向が見られる。学習したことを活かして問題を解く力については、全体的に低い。
調査以外の教科についての成果と課題		○意欲的に学習に取り組む児童が多く、楽しみながら表現することができる。 ○友達の頑張りを認めたり、作品を大切にしようとしたりすることができる。 ▲発想は豊かだが、道具の使い方が稚拙なため、それを技能面で発揮できない児童がいる。個に応じた支援が必要である。		

<p>昨年度の「指導改善プラン」に基づく取組の成果と課題</p>	<p>○一昨年度より継続して、教科を限らず伝え合う活動を積極的にとり入れて授業を展開したことで、相手の話を聞こうとする姿勢が見られるようになってるとともに、自分の考えを表現することへの意欲が高まった。</p> <p>○算数科における習熟度別少人数指導が定着し、楽しみながら学習に取り組む児童が増えるなど成果が上がっている。</p> <p>▲どの教科においても、既習事項を活用して課題を解決する力が弱い。また、自分の考えを分かりやすく説明することに苦手意識をもっている児童がみられる。</p>
<p>改善の方針</p>	<p>①習熟度別少人数指導、T. T. の指導方法、指導形態をより一層工夫し、児童それぞれの学習状況、個人差に応じた指導を行い、基礎・基本が確実に身に付くようにする。</p> <p>②自分の感想や意見をもって読んだり、教材文の内容と関連した自分の読みたい本を探して読む読書活動を取り入れたることにより、主体的に文章や資料を読み取る力を育てる。</p> <p>③問題解決的な学習や多様な体験的活動を充実させ、実感を伴う理解を促すとともに、学習して身に付けたことを比較・関連付けて考える力、知識・技能を活用したり自分の経験をもとに推論したりして問題を解決する力の向上を図る。</p>
<p>学校としての改善の取組</p>	<p>【全教科を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内研究に関連して、国語科では単元を貫く言語活動を設定するとともに、教材文の学習と並行して自分で選んだ本を読む（並行読書）活動を取り入れ、児童が主体的に学習することができるような単元の開発を行う。 <p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の内容や主題の理解といった読みの目的に向かって、書く活動、話す・聞く活動、並行読書などの読書活動を関連させた単元を構成したり、学校図書館や学級文庫を活用したりして、読書の習慣をつけ、文章に触れる機会を多くする。 言葉のはたらきや特徴について基本的な力を身に付けることができるよう、ローマ字や漢字については反復練習を行ったり、意味の分からない言葉は必ず辞書で調べたりする習慣をつける。 <p>【社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数の資料の中から必要な情報を正しく読み取り、自分の生活と関連付けて考えることができるようにするとともに、基本的な学習事項については繰り返し確認し、確実に身に付けられるようにする。 児童自らが調べ学習を進め、レポートや新聞などに自分の言葉でまとめる活動を取り入れたりと、日々の授業の中で必ず根拠を問うことを心がけたりすることで、知識を活用する力を育てる。 <p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が既習事項を活用して問題解決に取り組む時間を確保するとともに、自分の考えを表現したり説明したりできる場を設定し、互いの考えを交流しながら数学的な考え方を伸ばすことができるようにする。 児童の学習状況を的確に把握することにより、習熟度別少人数指導を一層充実させるとともに、個別指導の方法・時間を工夫し、基礎的・基本的な内容は確実に身に付けることができるようにする。 <p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験方法を自分なりに考えてその理由を説明したり、結果と考察のまとめ方、また単元で学んだ重点を自分の言葉でノートに書くようにしたりするなど、言語活動を通して科学的な思考・表現や知識理解の定着を図る。 物質とエネルギー領域の学習では、出来る限り実験を行い実感を伴った理解を促すとともに、学んだことをノートに絵や図でまとめることができるようにする。

<p>教員の 改善の 取組</p>	<p>【全教科を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科に限らず、1時間の授業の中に教科の特性や児童の実態に応じた形態で、互いの考えを交流する場面を作る。 ・1時間の学習のねらいを明確にして授業を展開するとともに、ノート指導に力を入れ、学習の成果を児童がノートを見て確認することができるようにする。 ・掲示物等の学習環境を整え、児童が学習したことを活用し、比較・関連付けて考えることができるように支援する。 ・年間指導計画や評価計画、および習熟度別少人数指導やT. T. 等の指導体制を再度見直すとともに、講師や支援員、S L Sとの連携を一層密にして、個に応じた指導をきめ細かく行うようにする。
<p>検証方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末、学期末ごとにテストを行い一人一人の達成状況を把握するとともに、定着度によっては反復練習等を行い、習熟を図る。 ・授業の最後に学習感想を書く時間を確保し、ノートやワークシートの記述内容の分析と学習状況の確認を行う。